

「えどがわの桜」1万5千本、始まりは篠崎堤 5.9km



篠崎堤の桜 日露戦争【明治37年(1904年)～明治38年(1905年)】の戦勝記念として、地元篠崎の人々によって植栽されたのが始まりで、数百本のソメイヨシノが桜のトンネルを作り、都内からの花見客を呼び込みました。昭和7年(1932年)に当時の報知新聞社が「新東京八名勝投票募集」を行い、「篠崎堤の桜」が選外十六景の八位に推薦されたことが、③の石碑に刻まれています。最初は堤防の下に建てられましたが、現在は篠田堀親水緑道に移されています。110年前の桜は江戸川の改修・大気汚染等で今はありませんが、江戸川区の桜15,000本の原点は篠崎堤です。



① 篠崎ポニーランドの「ポニー」
 上の写真「ポエルと桜」
 下の写真「かんととポビー」
 ※ポビーの見頃は5～7月



⑤ 瑞江駅西通り
 桜のトンネルが、篠崎街道から江戸川の堤防まで続きます。



③ 篠田堀親水緑道(192本の桜)
 篠田堀の整備にあたっては、自然回復を目指し、川床に砂利を敷き、動植物の生息環境に配慮した構造としました。下流部では既存の古木桜並木を活かした整備を行い、毎年お花見の時期には多くの人で賑わっています。



④ 東井堀親水緑道
 源平花桃(ゲンペイハナモモ)
 1本の樹で紅白に咲き分ける梅や花桃の源平咲きは、源氏の白、平氏の赤が名の由来です。毎年紅白の咲き方が違います。桜には源平咲きはありません。3月中旬～下旬が見頃です。